

香りの芝生について



東京都市大学環境学部環境創生学科 田中章研究室


近年、ヒートアイランド現象や温暖化などが問題となり対策としても都市緑化の必要視されている。その中でより豊かな“みどり”として芳香植物を利用したアロマスケープへの関心が高まりつつある。アロマスケープの研究として当研究室は香りの芝生を研究している。

「香りの芝生」とは

- 都市緑化のひとつで、「枝や茎が地面を這うように伸びて地面を覆う性質」を持つハーブを利用した芝生のこと。
- 人工的に緑の地表面をつくるだけでなく、新たに香りを楽しむ緑化が実現。
- ヒートアイランド現象対策として、都心部における狭小地の緑化が可能。
- 在来植物による生物多様性保全



香りの芝生に生育する代表種

		
ローマンカモマイル <i>Chamaemelum nobile</i>	ペニーロイヤルミント <i>Mentha pulegium</i>	イブキジャコウソウ <i>Thymus quinquecostatus</i>
香り：青りんごの香り	香り：メントール臭が強く、すっきりとした香り	香り：すがすがしい香り
<ul style="list-style-type: none">・全草に強い芳香がある・ローマン種のエッセンシャルオイルには、鎮静作用の効能がある・ストレス解消・不眠等に向く	<ul style="list-style-type: none">・湿った環境を好み、繁殖力が強い・匍匐性があり、害虫よけや殺菌作用などがある	<ul style="list-style-type: none">・葉は、小さく、長さ5~10mm・花色は淡いピンクで花つきも良好・在来植物である

ハーブの二次利用サイクル

- ハーブを用いた「香りの芝生」は従来の芝生よりも維持管理費にコストが掛ってしまう。
- 田中章研究室では、維持管理のために刈り取ったハーブを捨てるのではなく、二次利用としてポプリやハーブ石鹸等のハーブ製品にすることをやっている。
- ハーブ製品を学園祭等で販売し、その利益を「香りの芝生」の維持管理費に充てることをやっている。

